

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076400193		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ頼田		
所在地	〒820-1111 福岡県飯塚市勢田173番地3		TEL 09496-2-4623
自己評価作成日	令和02年01月10日	評価結果確定日	令和02年03月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和02年02月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寝たきり防止とコミュニケーション・昼食後、午後から運動を取り入れ職員と一緒に廊下を歌いながら歩く事に力を入れている。
 施設行事が多く春は屋外で桜の花見物や鯉のぼり見物、季節ごとの花を見に行ったり土筆を取ってホームを持ち帰り皆様に「はかま」をとり、夕飯のおかず一品として楽しんでいる。
 クリスマスシーズンになると、ホーム内でクリスマス飾りをする為、入居者様・職員が一丸となり壁画制作に取り組んでクリスマスパーティーを心まちにされる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯塚市郊外の自然に恵まれた環境の中で、新しく建て替えられた介護付有料老人ホーム併設の定員9名のグループホーム「ほほえみ頼田」がある。地域の方の温かな協力の下、盆踊りや運動会等、地域行事にも積極的に出かけ交流を深めている。リビングには床暖房を設置し、障子やクロスにこだわり、ホーム全体を和の雰囲気にして、利用者が心地よく暮らせるよう配慮している。協力医療機関による月2回の往診と緊急時の対応、看護師、介護職員の連携で、24時間安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。働きやすい職場環境の中で人柄の良い職員が定着し、チームワークを発揮して取り組み、法人内事業所との合同レクリエーションや野球観戦、演劇、映画鑑賞等の個別の外出によって、利用者の笑顔を引き出し、楽しい暮らしの支援に取り組むグループホーム「ほほえみ頼田」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に理念を唱和する事で、理念に対する意識を高めている。	理念をホーム玄関の見やすい場所に掲示し、日頃から目にする事で共有している。職員会議の中で常に理念について話し合い、職員は明るい笑顔で利用者と関わり、楽しい暮らしの支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の盆踊り、老人会の運動会に参加をして地域の方と交流する機会を大切にしている。	利用者と職員は、地域の盆踊りや老人クラブの運動会、どんど焼きに参加し、地域の一員として交流を深めている。産業祭りや光が丘学園の学園祭に出かけたり、同一法人のグループホームと合同で行う行事やレクリエーションは、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解し地域の方々への支援方法等、地域の方に向けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に運営推進会議を行い地域の方々、行政職員の方に参加して頂き、行事等の報告をしています。 出された意見はサービス向上に努めている。	利用者代表を始め、多くの地域代表、地域包括支援センター職員参加を得て、運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。ホームから、利用者の状況やホーム運営、行事予定の報告を行い、参加委員から、意見や要望、情報提供を受けて話し合い、出された意見はホーム運営やサービスの向上に反映させている。	日程を調整して、年に1回でも家族が参加出来るよう配慮し、ミニ勉強会の実施や利用者と一緒にレクリエーションを体験してもらう等、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と事業所は連絡をとり協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は行政窓口へ、ホームの利用状況や事故の報告を行ったり、介護の疑問点や困難事例を相談する等、連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、アドバイスや情報提供を受けている。また、代表が、行方不明者捜索模擬訓練に参加する等、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会、研修を行い身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	身体拘束に関する内部や外部研修を職員が受講し、職員は、身体拘束が利用者へ及ぼす弊害を理解している。禁止行為の具体的な内容を、日頃から申し送りや業務の中で気付いた時に話し合い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体的拘束適正化検討委員会会議を行い虐待についても見過ごさないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する事を理解し、参加した職員が内部研修で発表している。	権利擁護の外部の研修に参加した職員が、内部で伝達する事で、制度についての理解を深めている。また、制度の資料やパンフレットを閲覧できるよう玄関に設置し、必要時には制度の内容や申請方法を説明し、関係機関に紹介できる体制を整え、利用者の権利や財産が不利益を被らない支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	認知症対応型共同生活介護を十分に説明した上で、納得して頂ける事に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置している。 苦情、要望等が出た場合は話し合いをしている。	ホームの日常生活の中で、利用者の意見や要望を聴いて、出来るだけ反映させている。家族面会時に、職員とコミュニケーションを取りながら、聴き取りや意見や要望を聴き取り、それらを運営に反映させている。また、2ヶ月毎に送付するホーム便りで利用者の暮らしぶりを家族に伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の間関係の把握に努めている。 提案箱を設置をしている。	研修会を兼ねた職員会議を実施し、職員の意見や提案等が活発に出され、職員間で検討してホーム運営や業務改善に繋げている。また、管理者と職員は、毎日の申し送りや日常業務の中で、気付きや気になる事を話し合い、速やかに解決に向けた取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人間関係や勤務状況に努められている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用、募集に関しては性別、資格、経験に関係なく採用している。	職員の募集については、年齢や性別、資格等の制限は行っていない。職員一人ひとりの希望を聴いて、働きやすい勤務体制を整え、職員一人ひとりの特技を活かして、生き生きと働けるよう配慮している。人柄の良い職員が集まり、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習会に積極的に参加し、人権に対する意識を持つ取り組みをしている。	外部の人権学習会に職員が交代で参加して、伝達研修を職員会議の中で行い、利用者の人権を尊重した介護のあり方を話し合い、特に、利用者が不穏で難しい状況の場面での声掛けや、対応の仕方については、繰り返し話し合い、利用者のプライドを損ねない対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個別的ケア他の事業所の研修に参加しながら必要な技術知識等勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報交換しながら研修に参加し、最新の知識をみにつけ資質向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方に合った個別的情報をあらかじめ知り日常生活が安心できるよう支援を行う。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、要望を知ったうえで、生活の継続を大切にサービスに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の個別的な生活状況に応じて必要なサービスをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様ができることを増やす等、心を傾け聴きとろうとする等、信頼関係に努める。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人が生活していく中、家族に相談しながら本人と家族を大切に安心して生活できるように対応に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各居室にご家族の写真や好きなポスターを貼るなど努めている。 以前の隣人と相談したりと馴染みの関係が継続できるよう支援している。	同一法人のグループホームと合同カラオケを楽しみ、レクリエーションを通して行き来する中で、利用者同士の馴染みの関係を築いている。利用者の知人が訪ねて来たり、病院受診の時に姉妹の家に外泊する等、馴染みの場との関係継続に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や好みを把握し入居者同士の関係がスムーズに行われるように関わり見守り支援するように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は施設を紹介するなどの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や入居者様から思い出話などを聞いてより本人本位である介護を目指し支援するよう努めている。	担当職員は、利用者や家族から、若い頃の話、思い出話を聞く中で利用者の興味、関心事に触れつつ、コミュニケーションを取り、思いや意向の把握に努めている。意向表出が難しい利用者には、家族に相談したり、職員が利用者に寄り添い、その表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこれまでの生活歴、大切な経験や出来事を把握し、その人らしい暮らしをホームの中で活かせる生活を支援する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様から目を離さず、手をかざすの距離で見守る努力をしている。介助が必要な入居者様動こうとされるときはすぐに駆け寄り介助している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時やミーティング時に職員間で話し合い、今後の介護計画について検討している。 ご家族や入居者からの希望や要望を伺っている。	ケアマネージャーが中心となって、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、利用者の状態変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や様子、気づいたことを記録し、介護に役立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態にできるだけ対応し、支援・サービスを行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力を把握し、安全な暮らしができるよう支援していく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医と密に連絡を取り対応している。	契約時に、利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択してもらっている。現在、全員が協力医療機関による月2回の訪問診療を受けている。協力医療機関と毎週訪問の看護師、介護職員の連携で利用者の小さな変化も見逃さず、24時間安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来るようになり、適切な対応ができるようになった。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、主治医から情報をもらい、早期に退院ができるよう関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末期には、職員・医師・ご家族と連絡を取り事を進めていく。	重度化や終末期については、契約時に利用者、家族に説明し承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医も交えて方針を確認し、職員全員で共有して、利用者や家族が安心して終末期を過ごせるよう支援している。今までに看取りを経験し、職員のスキルアップとチームワークの向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、かかりつけ医に連絡し、指示を頂く様にしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて、消火器の使用法を身につけている。	年2回夜間想定避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方を確認して、夜勤者一人で9名の利用者を避難場所に安全に誘導出来るように取り組んでいる。運営推進会議を通して、近隣住民に非常時の協力をお願いしている。	災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の準備が望まれる。また、2階の介護付き有料老人ホームとの合同訓練を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等で、プライバシーや尊厳などの学習を行っている。	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重した介護について、言葉遣いや対応も含め、職員会議や申し送り、日々の業務の中で話し合い、共通認識に努めている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報が漏洩しないように取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりに合わせれる様、意向などを聞く様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分などに気をつけ、入居者様のリズムで過ごして頂けるように努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容は身だしなみを心がけている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳を自立されてる入居者様に手伝ってもらっている。	週3日入浴がある日は配食サービスを採用し、他の日は、利用者に食べたい物を聴きながら献立を決め、職員が手作りの料理を提供している。ショッピングモールへ外出に出かけたり、ホーム内で焼き肉パーティーを楽しむ等、食べる事を楽しくするよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の病状にあわせ、食事の量・栄養のバランス・水分量を考えて食事を出している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアやマッサージを毎週歯科医院に来てもらい、検診している。 自分で歯磨きができる人は自分でし、出来ない方は手をかして、口腔ケアしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを活かしながら、それに合わせてトイレ誘導をして、布パンツにパットで過ごせるように対応している。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、重度化してもトイレで排泄を基本とし、早めの声掛けや誘導で失敗のない排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間も利用者の希望を聞いてトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホーム内で個人に合わせて運動や歩行、食物繊維の多い食材を使った料理や腸に良い乳酸菌を積極的に取り入れて便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴者の体調に合わせて入浴の順番を変えたり、スタッフが見守りをしながら入浴をしたり、介助して入浴をしてもらう。	入浴は週3回(月、水、金)となっている。冬場は週2回であるが希望があれば、自立の方は週3回入って貰っている。自立の利用者には、さりげない見守りで対応している。入浴は、利用者職員が1対1でゆっくり会話が出来る大切な時間と捉え、何でも話し合える関係を築き、入浴が楽しめるよう支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンや個人の体調などに合わせて支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人によって服薬は違う。 体調によっては急に薬が変わることもある。 薬の変更などは申し送りなどで確認する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除は自分で出来る事をしてもらっている。裁縫や編み物が得意な入居者様にはしてもらおう。料理が上手な入居者様は職員と一緒にしてもらおう。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけている。	目の前が公園である立地を生かし、気候の良い時期は散歩を楽しみ、桜の時期には公園にテーブルセッティングをして花見を行っている。大衆演劇の観賞や野球観戦、映画鑑賞等、利用者の希望を聴いて出かける個別の外出支援にも力を入れ、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はホームで管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話や手紙のやり取りを希望した時はいつでも出来るようにして頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間の一部は家庭的な環境で、居心地よく過ごされている。 その時の季節が感じられるようにしている。 天気の良い時は窓を開け肌で風を感じられるようにしている。	新しく建て替えられた建物は、和を基調として障子やクロス等細部にこだわり、利用者が集うリビングには床暖房を設置し、足元が温かく心地よい共用空間である。季節感のある飾り物や観葉植物、利用者の笑顔の写真を飾り、家庭的で温かな雰囲気のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは食卓やソファなど自由に好きな場所で過ごせ、ひとりになりたい時は居室にて過ごす事ができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の物や使い慣れた生活用品、家族の写真や絵・人形など飾り心地よく安心して過ごせるようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切な物を持ち込んで設置し、その方らしい居室となるよう配慮し、利用者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。また、小まめに換気や清掃を行い居心地の良い生活空間である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの事を把握し、杖、歩行器、手すりなどを使用し、状況に応じて出来る事を見つけている。		